

プロロジス、郡山中央 SIC 隣接地に フクダ・アンド・パートナーズと 物流拠点集積パークを共同開発



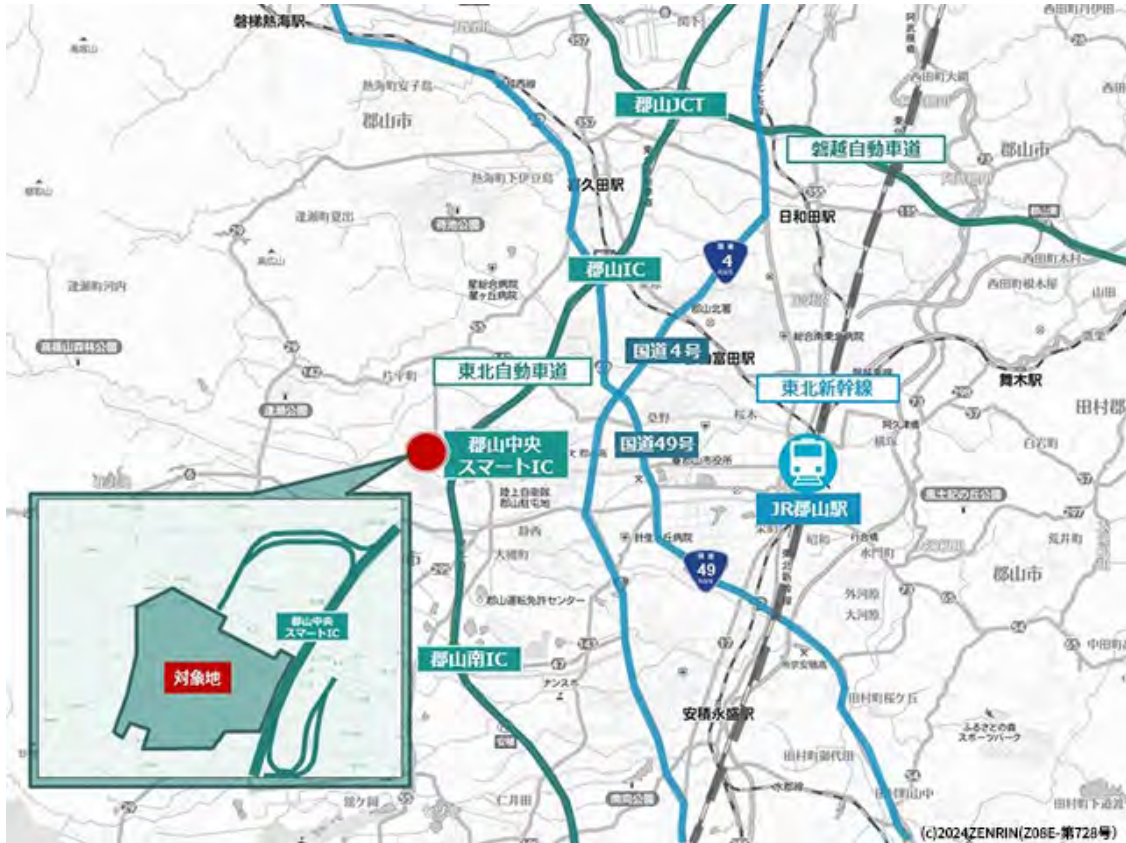
物流拠点集積パークの完成イメージ

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(日本本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役会長 兼 CEO:山田 御酒)は、本日、福島県郡山市において先進的物流施設の集積拠点となる物流拠点集積パークを、株式会社フクダ・アンド・パートナーズ(本社:東京都中央区、代表取締役社長:福田 哲也)と共同開発することを発表しました。

■ 開発立地: 広域物流および BCP 物流の最適地

本開発地は、東北地方を縦断する東北自動車道と太平洋岸・日本海岸を横断する磐越自動車道とが交差する郡山 JCT 近接の東北自動車道「郡山中央 SIC」隣接地に位置しています。

首都圏へ約3時間、仙台市へ約1時間、新潟市まで約2時間で到達可能。東北エリアで仙台市に次ぐ人口集積地である郡山市(人口32万人)の中心部から車で20分(約7km)とアクセスしやすく、雇用にも有利な立地です。



災害時には、磐越道など迂回ルートが確保可能で東北・首都圏にも災害支援物資を運べるBCP(事業継続計画)にも優れています。

■ 開発計画概要:物流拠点集積パーク「福島郡山 LL タウン」(*1)

計約138,000㎡の開発面積に、プロロジスがBTS・マルチテナント型物流施設を複数棟開発予定です。プロロジス施設と隣接する区画には、フクダ・アンド・パートナーズが物流施設「福島郡山 LL タウン棟」を開発し、同社が展開する「福島郡山未来共創センター」を物流施設に併設する計画となっています。

当物流拠点集積パーク内の各施設と機能連携を進める「福島郡山未来共創センター」は、平常時と災害時で機能が変わる防災型リバーシブルビルとして計画。電気の3次バックアップシステムを備え、災害時には地域避難拠点、また広域防災連携拠点として機能する予定です。飲料や非常食など約6日分の防災食料を備蓄し、災害時には避難者に無償で提供するほか、備蓄型組立仮設トイレ「ほぼ紙トイレ」の在庫保管拠点とし、入居企業の配送網を活用した被災地への迅速な配送を可能とします。

また、開発区域内には防災公園を設置。災害時にはヘリポートとなり、入居企業と連携して救援物資集積拠点として活用するなど、福島県や郡山市と連携した広域防災拠点としての仕組み作りに取り組みます。

なお、それぞれの施設はCO2削減を見込める高炉セメントや電炉鋼材を採用します。屋上には太陽光パネルと蓄電池を設置し、再生可能エネルギーを区域内に循環させる計画です。さらに、電気自動車(EV)から建物などへ給電する「V2Xシステム」の導入を予定しており、福島県沿岸部の市町村との再生可能エネルギーを活用した広域防災連携を目指します。

また、次世代の物流施設を見据えた取り組みとして、山間部でのドローン物流の検証や東北自動車道で自動運転の実証実験、隣接地への水素ステーションの誘致・利活用を目指しています。

【計画概要】

開発地	福島県郡山市大槻町中ノ平地内
開発区域面積	約138,000㎡(約42,000坪)
開発スケジュール	第Ⅰ期造成:2024年4月～同年12月 第Ⅱ期造成:2024年4月～2025年9月
プロジェクトマネジメント ならびに設計	株式会社フクダ・アンド・パートナーズ

*1: 「LL タウン」(フクダ・アンド・パートナーズの登録商標)の「LL」は「Logistics」と「Lifeline」を表しており、物流施設が人々の暮らしを守るサステナブルな存在となるとの想いを込めています。

■ 国際物流総合展にて詳細を公開

プロロジスは「国際物流総合展2024」にブース出展し、「プロロジスパーク行田」をはじめとする開発・運営中物流施設の詳細を展示します。

【会期】2024年9月10日(火)～13(金) 10:00～17:00

【会場】東京ビッグサイト東1～8ホール

【ブース番号】東4ホール 405

【国際物流総合展 公式ウェブサイト】<https://www.logis-tech-tokyo.gr.jp/>

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム
<https://prologis.form.kintoneapp.com/public/inquiry-media>